

令和2年11月24日

那須赤十字病院放射線科部長

水沼 仁孝 先生

日本放射線科専門医会・医会

理事長 井田正博

自己機能評価委員会担当理事 山田 恵

自己機能評価委員会委員長 大田英揮

画像診断品質保証のための自己機能評価の結果に基づく査察報告

はじめに

画像診断の品質保証を認定する公的システムは、我が国には存在していません。しかし、米国や韓国では長らく存在しており、法的拘束力も存在しています。そこで、日本放射線科専門医会・医会（JCR）では、国内における画像診断における品質保証を認証できるシステムを考案し、2019年にオンラインアンケートシステムを用いた調査を実施しました。アンケートを回答する為のURLは、日本専門医機構認定放射線科専門医研修プログラムに登録されている施設（連携施設、協力施設を含む）の施設担当者に、電子メールで送付しました。

アンケート（設問数144問）に参加することで、国内における画像診断に関する医療レベルを客観的に判断する材料となることが期待できます。アンケートの設問では、現時点で最上と考えられるものを集めており、すべてを達成することは困難と考えられるものでした。しかしながら、実臨床に沿った回答をすることによって、各施設の状況が、国内施設の中でどの程度であるかということ把握することができます。

<設問策定における基本的概念>

1. 患者にとって最も有効で、侵襲性の低い方法を選択すること。
2. 被検者の全身状態を考慮し、与えられた状況下で最も質の高い検査を行うこと。
3. 施行された検査から最も質の高い情報を引き出すこと。
4. 取得した情報の中で診療に資する内容を文書に記録し、当該臨床科の医師に伝達すること。
5. 緊急を要する場合は、電話等の手段を用いて直ちに当該臨床科の医師に伝達を行うこと。
6. この診療領域の先達として、教育研究活動に従事すること。

画像診断自己機能評価の結果および査察による評価

アンケート対象施設は、放射線科専門医総合修練機関、修練機関、特殊修練機関であり、回答施設数は91施設でした。

JCRによる採点の結果、貴施設は第2位でした。点数の妥当性を検証するため、2020年9月25日に、JCRの担当委員3名（井田、山田、大田）および外部委員（自治医科大学、森壘教授）が訪問査察をいたしました。実際の臨床業務を見学した上で、適切な画像診断設計、被曝管理、画像診断業務における安全管理、画像診断機器の管理、読影業務の質および適切な報告、院内診療科との相互関係、運用を含む、画像診断業務の全体における貴施設から示された回答の妥当性を検証いたしました。査察の結果、僅かに評点の変更がありました。貴施設の自己機能評価の結果は妥当であると判断いたしました。

従いまして、貴施設における画像診断業務は、国内の主要施設の中においても、非常に質の高いものであると評価いたします。質の高い画像診断業務は、施設全体における診療のレベルを担保し、医療安全に寄与するものと考えられます。

引き続き、質の高い放射線科診療を継続し、貴施設がますます発展されることを期待します。